

# 令和２年度第１回千葉市新基本計画審議会スマートシティ部会 議事要旨

１ 日 時 令和２年１２月２３日（水）１３時００分～１４時５０分

２ 場 所 Web開催（千葉中央コミュニティセンター若潮会議室）

３ 参 加 者 ≪委員≫５名（五十音順）

越塚 登委員、高梨 園子委員、南雲 岳彦委員、沼尾 波子委員、森川 博之委員

≪事務局≫７名

神崎総合政策局長、勝瀬未来都市戦略部長、鈴木スマートシティ推進課長、濤岡国家戦略特区推進課長、山田総務局次長、長峯業務改革推進課長、佐藤業務改革推進課長補佐

## ４ 議 題

- （１）副部会長の選任について
- （２）「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について
- （３）その他

## ５ 議事概要

- （１）副部会長の選任について

森川博之部会長の指名により、副部会長に越塚登委員が選任された。

- （２）「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について

「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について、事務局より説明を行い、委員との意見交換を行った。

- （４）その他

議事録の確定方法等について、事務局より説明を行った。

## ６ 会議経過

～以下、議事要旨～

### 議題（１）副部会長の選任について

森川部会長が越塚委員を副部会長に選任した。

### 議題（２）「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について

（事務局）「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について、資料２、資料３及び資料４をもとに、説明を行った。

<意見交換>

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 森 川 部 会 長   | まず、資料 2 の策定方針と資料 3 の審議会スケジュールについて、ご意見をいただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 南 雲 委 員     | 様々な自治体でスマートシティ推進をやる中で思うのは、いわゆるアーキテクトを議論の中に入れて今後形を作らなければいけないとなったときにスムーズにテイクオフできるような時間の使い方が賢いと思う。やると決まってから採用して動くというよりあらかじめ巻き込んでおくという視点。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 森 川 部 会 長   | アーキテクトにはどのような能力が必要か。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 南 雲 委 員     | スマートシティにおけるアーキテクトは、政策やデジタルを理解し、様々な分野の横串を刺す専門家という感じ。総合プロデューサーという言われ方もするが、様々な知見があり、キーパーソンにすぐに電話をかけられる人というイメージ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 森 川 部 会 長   | つなぐ人ということか。人間力が必要。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 越 塚 副 部 会 長 | 大きなところで申し上げると、まちづくりやスマートシティをやろうとする時にテクノロジーの話が出てくるが、まずはビジョンのようなものが極めて重要だと思うし、それを市民の方と共有しながら進めることが重要だと思う。また、本当に重要な問題に切り込んでいるかどうかということも大切だと考えている。例えば人口減少などは重大な問題で、今後数十年間は人口が増えることはなく減り続ける一方、高齢者は激増する。そして激増した高齢者は 2045 年あたりから激減するようなことがこれから起こってくる。このような都市課題に対して今までの行政手法では立ち行かないために、今、スマートシティだと言われているので、そのような課題に触れないということはダメだと思う。                                                                                        |
|             | 今、スマートシティでは、民間ベースでやりやすいところから始まっていて、すぐビジネスになる、企業が比較的参加しやすいところからスタートしていて、結局都市課題の一番重要なところを何にもやってないじゃない、全然触れてないじゃないということが多い。高齢化や福祉の問題、インフラの維持管理、台風の問題もあり、渋滞のような問題も残っていて、何も手つかずの状態、人口減少がやって来ている。そういった問題をビジョンの中にうまく盛り込むことが重要だと思う。                                                                                                                                                                                         |
| 森 川 部 会 長   | 越塚副部会長の発言を踏まえて、尖ったところがあると良いと思う。総花的になると結局何もやってないという話になる。あと、税金でやるものと民間でやるものはしっかり分けて議論した方が良い。税金でやるべきものは、予算はないかもしれないが、将来的には予算をつけないといけない。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 南 雲 委 員     | コロナの時代になり、公の役割は必然的に大きくなってきている。健康、生命、教育でも GIGA スクールが始まるなど、お金をかけずにデジタルを使っていかに効率的にできるかということが重要なポイントになってきている。したがって、スマートシティといいつつ、実はデジタルガバメントに近いところに集中している。健康、生命、福祉、介護、教育などは厚めに考えた方が良い。それと、雇用の問題はとても大きい。スマートシティをやるとすごく生産性が高くなり、地価が上がってみんなハッピーという議論が地方で結構あったが、雇用を何とか守らないといけないという状況になり、よく考える必要があると思う。オンラインのデリバリーで生鮮食品を届けるというスタートアップが東京中心に始まっているが、デリバリーをする人とか、スーパーでピックする人など新しい雇用が生まれている。高齢者は外出した場合のリスクが高いので、家にいて、荷物が届いた時も置き配 |

にしてくれるので接触がないというモデル。スマホで全部選べて、発注するとピックアップする人がいて、デリバリーしてくれて、接触なく生鮮食品を手に入れることができる。そういう雇用と生活と健康みたいなものをうまく絡め取るようなテクノロジーの使い方は、着眼点としては良いと思う。そういう時代に合ったものも市民との一体化という意味では大切である。

森川部会長 千葉市への期待は、チャレンジしている雰囲気をもっと出すこと。チャレンジしている雰囲気を出すと、千葉市に相談すれば何か千葉市でやってくれるのではないかと企業が集まってくる。

あと、この部会の委員に千葉銀行の方を入れても良いのではないかなと思う。産業を考えると、地方銀行が地方をサポートし盛り上げていくということが重要である。地方銀行が動くとか中堅企業、中小企業も動くので、銀行を盛り上げていくということも重要だと思う。先日、千葉の物流関係者と話をする中で、例えば鴨川から千葉市まで運ぶにしても多くの物流会社が絡んでいて、すごいコストがかかっている。千葉でまとめてスマートな物流をやるとということも一つあると思った。

また、南雲委員の雇用の話に関連して、5Gが普及すると、理想的には遠隔から全て制御できるようになる。建設機械とか自動運転でも遠隔から制御できるようになる。そうすると、コールセンターのように、遠隔のオペレーションセンターのようなものが出てくる。コールセンターは沖縄だが、千葉市で建設機械をオペレーションするようなセンターができると、女性や高齢者でも建設機械を扱えるようになる。今まで携われなかった人が参加できるようになっていくので、あり得るのではないかなと思った。

南雲委員 その点、私も色々なところに提言したことがあるが、スマートシティを考えたとき、オペレーションセンターみたいなものが出てくる。それは都市ごとにある理由は何もなく、束ねて地域と全体をカバーするセンターにした方が良い。行政や銀行もそうだが、いわゆるバックオフィス系のものは全てそうで、コールセンターのように電話で手助けするようなものが出てくる。そのような日本中のスマートシティのいわゆるバックというところについての「へそ」を千葉に置くっていう発想は面白いのかもしれない。

高梨委員 今、女性の雇用の職種の範囲が広がるという、非常に良いヒントをいただいたので、こういうことを入れていただきたい。市民と一体化という形で、取り残しのないような形のデジタルに期待している。

森川部会長 ネットワークが進むと、障害のある方なども遠隔から参加できるようになるので、色々な方々にチャンスができる。雇用はなくなるところもあるが、増えるところもあるので、期待したい。

沼尾委員 これまで、インフラや人材の話があったが、教育の話もある。学校やコミュニティなど草の根型で慣れていくということが大切である。さらに、行政の内部で情報をどのようにオープンデータ化していくのかというところが大変重要ではないかなと思う。

南雲委員 今の点はとても大切な点である。スマートシティの議論は高齢者や子育ては入ってくるが、若者が抜けてしまう。例えば、神戸市の場合には「Code for Japan」が参加するなど、NPOでオープンデータを活用している方々も委員に入っている。Code forや「アーバンデザインセンター」のようにまちづくりをやっている方々に参加していただくと、活動が若い人中心に見えてくるので、スマートシティを進める上で大切だと思う。

|                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 越 塚 副 部 会 長<br>長 峯 業 務 改 革 推 進 課 長 | 「Code for Chiba」はあるのか。<br>「Code for Chiba」はある。千葉市の取組にもご協力いただいている。例えば保育園マップだとか、そういったものに関して千葉市がデータを提供して、「Code for Chiba」の方でアプリを作っていただいているという状況がある。                                                                                                                                                                                                             |
| 越 塚 副 部 会 長<br>森 川 部 会 長           | 若い方々にも参加いただく市民参加型や官民連携ということが重要である。<br>そういうことを進めるためには市民とか企業の方々が千葉市をうまく使おうっていうスタンスになってもらわなければならない。千葉市にすごく強い思いを持った人、熱い思いを持った人、これを是非見つけていただきたい。論理的に考えるというよりまず思いのある人がいればそこに人が集まってくる。高梨さんなど、ご存じないか。                                                                                                                                                                |
| 高 梨 委 員<br>森 川 部 会 長               | たくさんいらっしゃる。<br>千葉市をより良くしていきたいと、こういう大義が必要である。大義があれば、人は集まってくるので、ムードメーカーのような人は重要である。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 越 塚 副 部 会 長                        | 地方の方は地元に愛着ある方が多いと思うので、そのような方と一緒に進められると良い。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 南 雲 委 員                            | この話はアーキテクトの議論にもつながっていて、地元に愛着を持っている方を中心に、テクノロジーに詳しい方や国とつながりのある政策系の方がいて、これが回るとスマートシティの色々なものがつながり始める。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 森 川 部 会 長                          | 地方はそれぞれの業界の方々の距離が近いことが素晴らしい。東京は業種ごとに距離がある。地方では、ペンキ屋の方と IT ベンダーの経営者の仲が良いというようなことがある。距離が近いことは強みになる。デジタル化を進めるときは地方の方がやりやすいと思っている。                                                                                                                                                                                                                               |
| 南 雲 委 員                            | 会津若松市は人口 12 万人、益田市は人口 6 万人で、人口の少ないところは回転が早い。みんなすぐ話をしてすぐ決まってしまう。千葉市が参考になるところでいうと、浜松市や神戸市などがある。                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 森 川 部 会 長                          | 越塚副部会長と南雲委員にお伺いしたい。スマートシティの好事例や面白い事例は何かあるか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 越 塚 副 部 会 長                        | 私が面白いと思うのは札幌である。札幌は地元愛が強い。札幌と千葉の違いは、千葉は東京があつての千葉で、千葉の方は東京へ働きに行くということがあるが、札幌は北海道圏の中心である。札幌はかなり先進的なところの取組が多い印象を受けた。先ほど森川部会長が言ったような、尖ったことを 20 年やり続けて街を成立させたという感じがある。地元愛のある方や行政、産業界の距離が非常に近い。すごく良く回っていると思う。あと、高知県は県の主導で一次産業を IT で支援しながらやっていくことに意欲的である。                                                                                                           |
| 南 雲 委 員                            | 国内のスマートシティで成功している事例はまだないと思うが、部分的にうまくいっているところはいくつかある。有名などころでは会津若松市がある。会津若松市は震災復興を契機としてスマートシティに取り組み、アクセントが参画している。<br>「AiCT ビル」にはマイクロソフトや三菱商事などが入っている。このように東京の企業の R&D 拠点を会津若松に移したというモデルが美しい。東京一極でないモデルを作るという視点は正しい。ファーストペンギンとして様々な取組みをして注目され、エンジンが回っている。あと加古川市にも注目した方が良い。防犯カメラの事例は、掛け声だけでなく最後まで結果を出しているという意味で注目すべきである。色々なカメラが街中に設置されていて、子どもの見守りに使われている。犯罪発生率が県の |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | <p>トップ3だったところが平均レベルまで低下している。IoTを入れて結果まで出したところは加古川市くらい。ペインから始めるというところは高松市も近い。津波など水害対策のセンサーを導入し、周辺の自治体と含めた広域化の流れになっている。生命にかかわることなどから開始し、それをやり遂げて広域化するということが一つの成果になっている。一方、多くの企業に声掛けをしてガバナンスが効かなくなっているケースも多いので、スモールスタートという発想は良いと思う。</p>                                                                                                                                                          |
| 高 梨 委 員       | <p>他都市の話があったが、千葉市の場合は6区がそれぞれ個性、特徴があり、それらを踏まえたモデル事業が点から線、面へと広がっていくような形で拡大すると良い。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 沼 尾 委 員       | <p>技術を導入して利便性を高めるという観点は大事だと思うが、もう一方で参加型民主主義の場面でどのようにスマート化を図るのかという視点が大変重要だと考えている。行政でもデジタル化に対応したような組織や決め方のルールをどのように作るのかという視点が大変重要である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 森 川 部 会 長     | <p>千葉市へのお願いだが、ビジョンを作る際のKPIは固定化せずにフットワーク軽く変えていただきたい。ダメな時には止めることも重要である。トヨタではプロジェクトが失敗した場合、「引き出しにしまう」という言い方をしている。ダメなときには引き出しにしまい、将来必要な時に引き出すというやり方もある。事務局から委員への質問はないか。</p>                                                                                                                                                                                                                       |
| 鈴木スマートシティ推進課長 | <p>活発な御議論、感謝申し上げます。ビジョン骨子案について、言葉の定義や策定の趣旨などで違和感などあればご指摘いただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 南 雲 委 員       | <p>最近、スマートシティでは学び続けるまち、変化し続けるという概念が重要になってきている。世の中の変化が非常に激しく、かつ、科学技術もどんどん進歩しているので、次から次へと学ぶことを楽しめるようなまちづくりになっていないと、一過性のものになってしまう。有名な建築家に依頼してファンシーなデザインのビルを建てても何年か経つと見慣れて、結構陳腐化してしまう。何かテーマパークを作るとかそういうことではなくて、変わり続ける余地を持っているということ、コンセプトにどう入れ込むかということはとても大切である。</p>                                                                                                                               |
| 沼 尾 委 員       | <p>市民全員参加のまちづくりということを挙げているが、参加や協働を通じて個々人が自己実現を目指すことができ、それを支えるまちになっているという視点がとても大切だと感じた。あと、学び続けるなど、「ING」、常に何かがあるってところが大変重要であると考えており、行政が過去に引きずられるとか、10年後のビジョンというところに固まるのではなくて、絶えず柔軟に対応できるっていう視点がとても大切ではないかと思う。</p>                                                                                                                                                                               |
| 越 塚 副 部 会 長   | <p>変わり続けるとか、柔軟ということはおっしゃるとおりだが、二つの話があると考えている。例えば、行政がやることで長期的なものというものもあり、少子高齢化や人口減少などは確実にやってくるので、それに対してどう対応していくかという課題は変わらないと思っている。森川部会長や南雲委員がおっしゃられたように、ダメなときにはすぐ止めるという方法論は必要。一方、長期的課題の継続的取組みも重要で、メリハリをつけて分けなければならない。</p> <p>あと、「変える」ということは簡単ではなく、しっかり考えた方が良いと思う。というのも、アメリカの経済の分野で「チェンジマネジメント」という分野がある。「変える」ということ自体が一つの学問体系になっており、「変える」ということは意欲ややる気など情緒的なことではできず、変えやすい体制を構築するということが重要だと思う。</p> |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 森 川 部 会 長   | こういったことは数年で終わるものではなく、ずっとやり続けたいといけな。結構時間がかかる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 越 塚 副 部 会 長 | 時間軸というのは重要で、私や森川部会長のように IT やテクノロジーを専門にしていると時間軸は早い。テクノロジーは早く、データはそれより若干遅い、都市計画などはもっと時間軸が長い。どの軸で期待して、どの軸で計画を立てるかというところはとても重要である。スマートシティというと、IT の時間感覚が持ち込まれている感じがあり、全然進まないと言われることがあるが、都市計画をやっている方からするとすごく早く進んでいる。IT 業界以外の方とお話をする、やる気があるからこそしっかりと着実にやって時間がかかる。スマートシティは異分野の集まりなので、時間感覚を相互に理解することは重要だと思う。                                                       |
| 森 川 部 会 長   | テクノロジーが入り込んでいくと、人の動き方というか、働き方や生活の仕方も変わるので一番時間がかかる。人はなかなか変わらないので、千葉市には継続的にやっていただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 高 梨 委 員     | 少子高齢化では、短期、中期、長期で、色々と計画を立てることが大事だと思う。そして、財政も 5 年、10 年、その先で状況等も変わってくると思うので、そのような背景を見ながら計画を立てていくことは持続性ということで大事だと考えている。                                                                                                                                                                                                                                      |
| 森 川 部 会 長   | 貴重な御意見である。千葉市の 10 年後、20 年後の財政の在り方をシミュレーションして、インフラの維持管理などコストが増える一方、税収は人口減少により減っていくので、何かしなければならないということになる。以前、人口消滅都市というものがあったが、将来の危機感がドライブをかけていくので重要である。財政もそういうものなので、シミュレーションできると良い。自治体ごとに道路の延長距離や橋の数などを色々と入れて。                                                                                                                                              |
| 越 塚 副 部 会 長 | まず、注目すべきは人口ピラミッドである。20 年後の人口ピラミッドを見るとゾッとする。人口の最大が 90 歳以上になる。団塊の方が現在、後期高齢者になりつつあるが、次の問題として団塊ジュニアの後期高齢化がある。あつという間に歳出が増えるし、これをどのようにするか。団塊ジュニア以降、特に人口が減少し、団塊ジュニアから団塊ジュニアジュニアの間で人口が 40%減った。おそらく、千葉はある時期に流入した方がたくさんいて、その方々が高齢化した時が問題となる。そのような人口ピラミッドがベースにあり、インフラの修繕が一気に生じてきて、ゾッとするのでスマートシティが必要ということになる。                                                         |
| 南 雲 委 員     | 海外の方とスマートシティの話をする、最近、デジタルに比べてグリーンが大きくなっているということに加えて、財政負担が大きな話題になっている。要はコロナで社会保障が大きくなっていて、持続できない。短期的と見て財政支援を行ったがまだ続く、繰り返されるということが分かってきて、財政がどこまでもつのかという、サバイバビリティのような議論になっている。人を増やさずにどのようにやるかという話になるとデジタルが出てくるが、相当厳しい。雇用だけで賄いきれないので、社会保障として地域の生活を支えていくということになり、その上でのスマートシティということになると、財政は真剣に考えて、何ができるのか、どの順番でやるのかということをもとめていかないと人口ピラミッド以上にアクセントが付いてしまう状況だと思う。 |
| 沼 尾 委 員     | 千葉市の財政についていうと、特に社会保障関係含めて、国が決めたものを受け止めてやらざるを得ないという状況があり、従属変数が非常に多いというところが悩まし                                                                                                                                                                                                                                                                              |

い。一方、インフラその他について、おそらく長寿命化計画も策定しつつ、将来の財政需要については、全国の自治体で策定が努力義務になっているので、その辺りの見通しについてはある程度作っていると思う。そういった一定のレンジの中でスマート化を考える時に、どこまで財政支出でやるのか、あるいは民間の投資を呼び込むのかというようなところも含めた検討が必要という印象である。

南 雲 委 員

あと、若者の活躍の機会を増やすということを考えた場合、民間の方が週に何日かは千葉市のために働くなどリボルビングドアのように流動化するとか、一週間を分けて副業するということをしなければ人材が足りない。スマートシティの計画を立てるときにはリクルーティングやスタッフィングの観点からどのようなことができるのかということも入れた方がよい。

越 塚 副 部 会 長

サバイバビリティを考えると、明らかに基礎自治体 1,788 というのは無理だと思う。何十年かの間にある程度人口が減少すると、統合という話が出てくる。50 年経ったときに 1,788 あるとは思えない。千葉のエリアでは、柏市もスマートシティをやっているほか、私自身、市原市でスマートシティのアドバイザーをしており、流山市はオープンデータで有名であるなど、千葉市周辺の自治体はスマートシティに一生懸命なので、スマートシティというテーマの中で、先駆けて周辺と連携していくというのは良いモデルになるのではないかと。千葉は最も条件が揃っていると思う。

南 雲 委 員

先ほどオペレーションセンターの話があったが、複数の自治体から、電気、ガス、水道を自治体が自ら経営するドイツの「シュタットベルケ」のようなモデルが必要なのではないか、という話が出てきている。自治体が経営に乗り出し、公共サービスを提供し、ビジネスとして回していくというモデル。それが広域連携でつながっていくと、特定のビジネスについては千葉市から来るというすみ分けや相互補完ができるようになる。千葉市は、自らシュタットベルケ的なものを考えられる規模の市だと思うし、地理的にも良い。オペレーションセンター、公共共有サービス、データセンターなどはこれから増えていくが、やったもの勝ちになり、他自治体が作ってしまうと、マーケットを持って行かれてしまうので、千葉市のユニークさの中に織り込めるのであれば面白いと思う。

森 川 部 会 長

鈴木スマートシティ推進課長

様々なアイデアが出て素晴らしい。事務局側からも何か質問はあるか。

千葉市の場合、市域が大きいのでスモールスタートという考え方があるが、こういったところから手を付けていけばいいのかなどご意見があればお願いしたい。スマートシティと言っても色々な自治体の規模がある中で、千葉市の中にも 6 区あり、コミュニティもある。やはり地域の課題に応じたスマートシティをやっていく必要があると考えている。

南 雲 委 員

その辺について、私は三層構造だと考えている。一つ目に、コミュニティとは、顔が見える、同心円状の 1.5 キロから 2.0 キロくらいの世界。二つ目に市という行政単位、デジタルガバメントのサイズのところ。三つ目が広域。この三層でそれぞれ何をやるのかについて官民でマトリクスを作って整理しないといけない。顔が見える部分は市民参加につながりやすい。デジタルガバメントに近づいていくとプラットフォームが、広域になるとビジネスが見えてくる。その辺はよく考えて、マトリクスを作って整理した上でビジョンにつなげていくことが必要だと思う。

越 塚 副 部 会 長

千葉の基礎自治体を見たとき、おそらく市の中に全ての産業があると思う。例えば千葉市や市原市には農業もあれば工業も商業もあって多様な産業があり、特長だと思う

森 川 部 会 長      ので、そういったことを活かせるのは千葉ならではだと思ふ。

勝瀬未来都市戦略部長      何が一番の問題かは地域ごとに違うので、総花的にはできない。千葉としては、ペインは何なのか、またペインだけがあってもそれに対して強い想いのある方がいなければ机上の空論で終わってしまうので、想いのある方がいるかどうかで変わってくる。

越 塚 副 部 会 長      今回の骨子案の中で、推進にあたり重視する視点に「データ起点」を挙げている。他自治体の事例等を聞くと、データを集めてもうまく活用できない事例があると承知している。データをスマートシティに活用していく中でどういった留意点が必要なのか、他自治体の事例等を踏まえて御教示いただきたい。

森 川 部 会 長      データを集めることから考えるのではなく、使うことから考えていかないといけない。そもそも何のためにデータを使うのかというところに立ち返って、そこが明確なところは進むが、そこがなかなか明確ではなくて、データを使うことが自己目的になってくると違う話になってくる。狭いところはデータがなくても目で見て分かる、人のつながり具合で分かるが、全体に広がってくるとデータで見ないと判断できない。今、スマートシティで何故データが出てきているのかというと、長期ビジョンや長期的な課題、広域的課題を把握するためにはデータが必要で、その取り扱いが不足しているところからスタートしている。そもそもの広域的課題を忘れて、データという手段だけを論じると、何のためにデータをやっていたのか分からなくなる。データを使って何をやるのかをしっかりとすれば、あとは付いてくる。パーソナルデータの問題も必要なことが固まればみんなの合意も取りやすいが、何をやるか分からない、何のメリットがあるか分からないということだと難しい。

勝瀬未来都市戦略部長      今の御意見を参考にしながら、我々も進めてまいりたい。

森 川 部 会 長      今の話で、お悩み相談所のようなものを作ると良いと思った。例えば、企業でもこのデータが欲しいということがあると思うので、それを相談できるような場があっても良い。私も出席している「データ流通促進 WG」という会議では、企業からこのようなビジネスをやるためにカメラ映像を使って大丈夫かという話が来て、著名な弁護士などが1時間無料で相談に応じるということがある。国も企業がどのようなことに困っているのかが分かり、企業もアドバイスが得られ、弁護士の方も企業がどのようなことを考えているかが分かって楽しいなど、WIN・WIN・WINになっている。

沼 尾 委 員      データの話に関連して、行政と住民との情報共有や連携の仕組みを考える必要がある。コロナ以前から近隣のつながりは希薄化し、孤立する状況もあり、行政が住民ニーズを把握することも難しくなっている。子育て世帯などは SNS や子育てサークルのつながりがあり、50 代以上は町内会や自治会、商店会、農協経由のチャンネルがあり、行政はそうしたところから色々なニーズを把握したり、情報を取ることができる。若い世代については、広域のプラットフォームで同じような問題や関心を持っている人たちの SNS などから情報は取れるかもしれない。このように、多様な住民に対し、ニーズをどう汲み取るのか、そしてどのように合意形成を図り、地域のビジョンを作っていくのかという観点から情報収集とそのデータ化、共有や活用の形を考えることが求められる。

森 川 部 会 長      視点2の「データ起点」については、これが独り歩きするとデータドリブンのような感じになってしまい、ペインのところにはいなくなるので、これは当たり前と割り切っても良いのかもしれない。データは市民中心など全てに関わってくるので視点2として独立させてなくても良いのではないか。



|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 越 塚 副 部 会 長 | データの利活用については国もそうだが、まず、千葉市がお手本を示すことが必要である。千葉市が行政の中でデータを使うとか、市民への説明の中でデータに基づいた説明を行うとか、民間にデータを使うよう求めるのではなく、自らが使って強くリーダーシップを取っても良いのではないかな。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 高 梨 委 員     | 視点４の「自立性」でマネタイズを考慮した仕組みを検討とあるが、ハート面でやる気を起こさせ、やりがいにつながることが大事だと思う。私ども、商工会議所女性会では地域経済発展のために各種活動を持ち出しでもやっているが、収益という部分だけで考えると金の切れ目が縁の切れ目のような形になってしまうのではないかな。お金だけではないということでやっていかなければ、継続できないのではないかな。                                                                                                                                                                                                                                             |
| 南 雲 委 員     | 今のマネタイズの点はとても大切で、スマートシティ・インスティテュートの会員の自治体約 180 にスマートシティを推進する上での課題は何かをアンケートしたところ、一番がマネタイズやビジネス、二番が市民参加、三番はアーキテクトだった。自治体は、ビジネスモデルを作るとかマネタイズするという仕事はあまりないと思うが、自立的にスマートシティを回すためにはこのスキルをどこから手に入れなければならない。産学連携や官民連携など何かやらないと手に入らないという課題を抱えている。そうでないと、PoC 疲れと言われるように、助成金が終わったら事業も終わる、金の切れ目が縁の切れ目になってしまう。地域の顔になれるような企業で、本業で力があり、データ利活用のところはそんなに儲からないが地域のためにやるという企業を見つけてこないと先細ってしまう。私は千葉ならできると思うが、それができないとアプリがいっぱいできて終わってしまう、そんなスマートシティになってしまうと思う。 |
| 森 川 部 会 長   | 全体的にはこの骨子案で良いので、これを具体化、あるいはどのように動かしていくのかということを引き続き、事務局で検討いただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

### 議題（３）その他

|               |                                                                      |
|---------------|----------------------------------------------------------------------|
| 鈴木スマートシティ推進課長 | この部会の議事録については、事務局で作成し、各委員に御確認いただいた後に、森川部会長に最終的に御確認いただき、確定とさせていただきたい。 |
| 一 同           | （異議なし）                                                               |
| 鈴木スマートシティ推進課長 | 大変貴重な御意見をいただき、感謝申し上げます。次回は来年５月頃を予定しており、追ってメールにて御連絡、調整をさせていただきたい      |
| 森 川 部 会 長     | 皆さまより深い御意見をいただき、感謝申し上げます。今後もよろしくお願いしたい。                              |

—閉会—